

どうぶつこうえん ニュース



モウコノウマ

現存する唯一の野生馬であり、体重は300kgほどと小柄で、体は茶色、たてがみは短く立っています。最初に発見した探検家の名前をとり、ブルツェワルスキーウマとも呼ばれています。狩猟等により一度はモンゴルから姿を消しましたが、ヨーロッパの動物園で増えた個体を再びモンゴルの自然保護区に戻し、野生復帰させています。

水上恭男(MIZUKAMI YASUO)



No.81
2011
Autumn

科学館特別展「飼育係の一日」



今回の特別展示は、「飼育担当動物者の1日の作業と関連の写真展」を行っています。

皆さんは、飼育係の仕事というと、どのようなイメージをお持ちでしょうか？

1人の飼育係は、多くの動物を担当していますが、今回は1日の飼育作業がどのように行われているか知ってもらうために、その中の1種類の担当動物をピックアップして作業の流れを簡単にフローチャートにまとめてみました。

色々な動物担当者の作業を紹介したいのですが、今回は次の6種類を挙げてみました。

この6種類を選ぶにあたっては、それぞれ違った餌を食べている動物や皆さんがよく知っている動物、あまり知られていない動物から選んでみました。

草食動物の代表としては、首が長くてよくご存知のアミメキリンを選びましたが草食動物といっても種類によっては、草類だけ与えているわけではありません、今回選んだキリンを例に挙げると他にもタマネギ・ニンジン・牛用配合飼料・木の葉（いろいろな種類）を与えています。

小動物の中からは、小さなお子様も知っている「風太くん」で有名になりましたレッサーパンダを選びました。

パンダというと笹をイメージすると思いますが笹だけではなくありません。リンゴ・オレンジ・煮サツマイモ・煮ニンジン・トマト・レーズン・ニボシ・リーフイター用ペレット（木の葉主食のサル用固形飼料）など色々なものを与えています。

鳥類からは、魚を食べる鳥で、みなさんがどなたでも大好きで、水中を群れて飛んでいるような泳ぎに見せてくれる、とても人気者のケーブペンギンを選びました。

普段はアジを与えています、その中には栄養を補うため、ビタミン剤や塩などが添加されています。

夜行性動物からは、白黒の色をし黒のベストを着ているような動物でよく見ると、とてもかわいい顔をしたミナミコアリクイを選んでみました。

アリクイといいますとアリを与えているだろうな～と思いま

すがアリは与えていません。なぜかといいますと毎日、大量にアリを仕入れることは不可能であり、高価なものになってしまうことからです。

代用食としてミキサーに色々なものを混ぜて作ったものとフルーツなどを与えています。

そして、爬虫類からは、リクガメ類の中でも存在感や迫力のある、とて

も大きなアルダブラゾウガメとケツメリクガメを選びました。こちらは、野菜類を中心に与え、その他にも色々な草類や色々な木の葉などを与えています。

最後にサル類の中からは、大型・中型・小型と様々な大きさの種類を当園では飼育していますが、今回は小型サル類を取り上げ紹介することにしました。

餌としては、ミルクパン（食パン・粉ミルク・ハチミツ・ビタミン剤）・バナナ・リンゴ・オレンジ・トマト・煮ニンジン・煮サツマイモ・ゆで卵・ペレット・ミルワーム・ココロギ・マウスの子などを与えています。

1日の作業を見ていただければ動物の動く時間帯もわかってくると思います。是非、見学の参考にしてみてください。

写真展では、そのゾーンにいる動物の顔のアップやマーモセット類やコアリクイでは親の背中に子どもの乗っている親子の写真を載せてみましたので、あとでじっくり実物もみてください。

飼育担当者は、繁殖の難しい動物や同じ種類でも増える個体、増えづらい個体、増えない個体と様々いますが、種を維持できるように色々な試みをして飼育技術の向上を目指しています。

日々の作業の積み重ねによって個体維持だけでなく、年齢構成を考え、世代の維持、さらに個体群の維持と「命をつなぐ」という作業を行っています。

この特別展示は、動物科学館2階で平成23年9月1日から10月31日まで行われています。

是非、ご覧になってみてください。

石井 信一 (ISHII SHINICHI)



飼育よもやま話

平成23年度の新人飼育係になりました



草原ゾーンのグレビーシマウマ、ダチョウ、シタツंगा、ホオジロカンムリヅル、ハゴロモヅルの担当をしています、佐藤 安優美です。はじめまして…と言いたいところですが、お久しぶりですと言うのが正しいかもしれません。実は2年前に千葉市動物公園内にある、子ども動物園で非常勤職員として3年間働いていたことがあるので、もしかしたら皆様の中に私のことを知っている方もいらっしゃるかもしれません。

4月から草原ゾーンの担当になり前半年が経ちますが、やっと動物にも見慣れてもらったのか、私を見て驚かないで対応してくれるようになりました。しっかり人の区別をつけているのだなと動物たちに感心しています。

初めは私自身、動物の個体を覚えるのに必死でした。シマウマ3頭もなかなか顔だけでは見分けがつかず、体全体を確認してやっと見分けられました。シマウマにも種類があり、それぞれの違いも知らず、先輩たちに教えてもらい理解できるようになりました。

来園者の方の中には本当に多くの種類の動物を詳しく知っている方がいて、私とは違う視点で動物を観察している方も多く、お話を聞いた時は本当に勉強になります。私自身も、担当動物の勉強をさらにしていき来園者の皆様に多くの情報を提供できるように頑張っていきたいと思いますが、また皆様がみた動物の情報も教えてもらえると嬉しいです。

来園した小学生の中には、将来の夢は、「千葉市動物公園の〇〇〇の飼育員さんになりたい!」と、話してくれるお子様が何人もいました。その話を聞いた時、将来働いてみたいと思ってくれる場所で働いていることがとても嬉しく思い、もっとたくさんの方から千葉市動物公園が好きと思ってもらえるように、頑張っていこうと思いました。

最後に話は変わりますが、私が担当している草原ゾーンが一望できる場所をご存じでしょうか?その場所は展望デッキです。展望デッキから草原ゾーンが見渡せ、大きな動物も小さく見える場所ですが、また違う雰囲気動物を観察できる場所なので、ぜひそちらからも動物を見て楽しんでください。

佐藤 安優美 (SATOU AYUMI)

飼育係のお話

オランウータンの吊り橋プロジェクト



私は今年の5月9日から15日まで、NPO団体ボルネオ保全トラストジャパンから、動物園の技術者として依頼を受け、オランウータンの生息するボルネオ島に行ってきました。この「吊り橋プロジェクト」は近年、生息地の減少でその生息数を急激に減らしているオランウータンを救うためのプロジェクトで

す。生息地の減少の一番の要因はヤシ油(パーム油)の原料となるアブラヤシのプランテーションの開発にあります。その影響で分断化されて、孤立したオランウータンのために、消防ホースで作った橋を川に架け、他の場所へ移動できるようにすることを目的としています。すでに3本の橋が架けられ、今回が4本目でした。

まず現地について驚いたのは、見渡す限りアブラヤシの畑が広がっていることでした。アブラヤシの木はオランウータンにとって、食用としても、移動のために使うこともできないのです。

橋を架ける場所は川をボートでさかのぼり、さらに支流に分け入った熱帯雨林のジャングルです。前回まではすべて天然の木から木へ橋を渡していたのですが、今回は片側が洪水の影響でしっかり支えとなる木がなかったため、初めてパイプでタワーを作って対岸の木へ橋を渡す方法をとりました。暑さや群がる蚊、ぬかるむ地面など、非常に過酷な作業状況にありましたが、地元NPOの人たちの協力もあって、何とか橋を架けることができました。

私たちがしていることは、ほんとに小さなことなのかもしれませんが、以前作った橋で、実際にオランウータンが渡ったという報告もあります。それでどれだけのオランウータンが救えるのか、疑問視する方もいるでしょう。しかし我々の活動や思いは、地元の人々にも着実に根付いてきています。そして私は動物園人として、今回体験したことをできるだけ多くの人に伝えていかなければならないと実感しました。

パームヤシは食用油として、日本人の生活に欠かせない存在です。それを今さらすべて拒絶することは不可能です。しかしそれをひとりひとりがしっかり認識することで、少しずつ何かを変えていくことができるのではないのでしょうか?

伊藤 泰志 (ITOU YASUSHI)

- 5月 5日 オオカンガルー(ウーチャンの子):母親の袋から外に出るようになる。
- 5月11日 ヤギ、ヒツジ全頭:フィラリア予防注射を行う。
- 5月12日 ラマ(メス、ラマミ):市原ゾウの国から搬入。
- 5月14日 マガモ:8羽孵化。
- 5月20日 アビシニアコロブス(シャボン):鹿児島市平川動物公園より搬入。
- 5月29日 サポーターズディを開催。
- 6月 1日 ハシビロコウ:オスとメスをペアリング。暫くして闘争しそうになったので分ける。
- 6月 4日 ニホンリス:2頭繁殖を確認。
- 6月 6日 シロオリックス:メス(ラザニア)と仔を雄(グランデ)と展示場で、出産後初めて一緒にする。ラザニアとグランデ、軽く角を突き合わせるが、とくにトラブルなし。
- 6月11日 「大人の飼育体験」開催。



- 6月13日 コツメカワウソ(チイコ):午前中より陣痛と思わしき鳴き声を発し、夕方までに出産した様子。後日4頭の仔を確認。
- 6月15日 水禽池:ツクシガモ、シジュウカラガンに突かれる。すぐに保護したがふらふら状態。暫くして元気を取り戻す。
- 6月16日 ベニイロフラミンゴ:産卵。7月15日に自然孵化したが、17日に行方不明になる。
- 6月16日 オニオオハシ:性別判定を行うため、羽毛採取。
- 6月20日 猛禽、キジ類全羽:捕獲して、ニューカッスル予防注射を行う。
- 6月25日 ワタボウシバンシエ(オス):カタル性腸炎のため死亡。
- 6月26日 アミメキリン:リュウオウ(オス)、サツキ(メス)にマウントするが、交尾には至らず。
- 6月27日 ホンドザル(メス、ナツメ):咬まれ傷数か所あり。捕獲後、治療を行い個室に分ける。
- 7月 1日 カルフォルニアアシカ:暑さの影響で食欲不振。
- 7月11日 フタコブラクダ(メス、ヒロ):死亡。死因は、子宮感染によるショック死だった。

- 7月12日 ミナミコアリクイ(4月12日生まれ):本日より、一般公開。
- 7月17日 レッサーパンダ(チチチ):2頭出産。
- 7月20日 ヘビクイワシ:抱卵中だった卵、検卵の結果無精卵だった。
- 7月22日 レッサーパンダ:チチチの仔、2頭とも死亡。
- 7月23日 アビシニアコロブス(シャボン):検疫終了し、オスと同居。
- 7月25日 マレーバク:ユメタ(オス)とサコ(メス)ペアリング。ユメタがマウントを試みるが失敗。
- 7月26日 マダガスカルホシガメ:夏期、科学館から、日当たりのよいインコ舎展示場へ移動。
- 7月27日 サマースクール開催。(~29日まで)



- 8月 1日 ウマ・ロバ全頭:蹄蹄実施。
- 8月 6日 夕焼け動物園(閉園後の動物舎見学)を開催。
- 8月 9日 オオカンガルー(オス、ヒビキ):夕方部屋にもどっても餌を食べず。
- 8月15日 フラミンゴ舎:カラス侵入防止ネット交換工事をするため、ナベコウ、フラミンゴを移動させる。
- 8月16日 マンドリル(オス、ヨタロウ):ストレスためか、脱毛が始まる。
- 8月21日 オオカンガルー(オス、ヒビキ):11時10分頃、肺炎のため死亡。
- 8月22日 ドリームナイト・アット・ザ・ズー(障がいのある子どもたちとその家族を動物園に招待)開催。



震災復興チャリティイベント

ちばZOOフェスタ・2011

POWER of 東日本

動物飼育数

平成23年8月末現在の飼育数

総計

143種 800点

哺乳類

64種
462点

鳥類

71種
304点

爬虫類

6種
31点

両生類

1種
2点

魚類

1種
1点

(今年度は全4ページ年3回 次回は1月の発行となります。)

どうぶつこうえんニュース 第81号 平成23年10月15日発行

編集発行 千葉市動物公園

<http://www.city.chiba.jp/zoo/>

(財)千葉市動物公園協会

<http://www.chibazoo.net/>

[総合案内]TEL043-252-1111

〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地

280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-city Japan

